

ヤマト運輸と 地域活性化などで連携



▲締結式では市のご当地ボックスを披露しました

市とヤマト運輸株式会社は先月17日、地域活性化や市民サービス向上などに連携して取り組む協定を結びました。やっさだるマンと特産のタコが描かれた荷作り用のダンボール箱「ご当地ボックス」を共同製作し、瀬戸内三原築城450年事業のPRに活用することなどに取り組みます。同社が県内の自治体と協定を結ぶのは初めてです。

市役所で開かれた締結式では、天満祥典市長と同社広島主管支店の川上伸次主管支店長が協定書に署名し、ご当地ボックスの試作品を披露しました。

ご当地ボックスは今月から同社の市内営業所4カ所で販売。通常の箱と同

じ大きさで、価格も同一の184円(税込み)です。市の位置図や450年事業のサイトにアクセスできる2次元QRコードなども掲載し、荷物の受取人に市を知ってもらえるよう工夫しています。

そのほかにも、配達員による子どもや高齢者などの見守り、道路に異常があった場合の通報など、7分野で連携事業に取り組みます。

同社をグループに持つヤマトホールディングス株式会社の木川眞代表取締役会長は少年時代を市で過ごした縁で、三原市ふるさと大使に就任していただいています。

経営企画課

☎0848・67・6270

築城450年事業の マンホール蓋を設置

市は、瀬戸内三原築城450年事業のシンボルマークをデザインしたマンホール蓋を製作し、J.R三原駅周辺の



▲色鮮やかな築城450事業のマークがデザインされたマンホール蓋

市は先月19日、小早川隆景の肖像画など小早川家所蔵の歴史資料3点を初公開しました。

公開したのは市が小早川家から調査を依頼された約40点の資料のうち、小早川隆景肖像画、大徳寺黄梅院の玉仲宗瑠による賛(絵に書かれた詩句)、小早川家の家紋である左三つ巴の入った兜の3点。このうち肖像画は、市内に3点ある隆景肖像画の中でも、隆景の十三回忌に描かれた佛通寺所蔵のものに似ていることから、何らかの関連性

小早川家の 歴史資料を初公開

下水道整備課

☎0848・67・6124

歩道と車道の2カ所に設置しました。築城450年事業のシンボルマークは、三原城の石垣と瀬戸内海の多島美がモチーフで、中央の白線は白波と新しい風をイメージしています。マンホール蓋は直径60cmの铸铁製で、色付けされています。

市ご当地デザインのマンホール蓋には、やっさ踊りをモチーフにしたものもあります。今月から築城450年事業のメイン期間が始まることから、中心市街地にこのマンホール蓋を設置し、機運を高めます。



▲(右から)初公開された小早川隆景の肖像画と賛、家紋の入った兜

があると考えられます。

小早川家は、隆景の養子である秀秋が亡くなって断絶していましたが、毛利元就の三男だった隆景の功績を後世に伝えたいという毛利家の意向で、明治時代に再興しました。

資料は再興時、毛利家から譲り受けたものです。小早川家子孫の小早川隆治さんが、三原築城450年を機に市へ調査を依頼しました。

市は今後、市と隆景の関わりを検証する貴重な資料として調査を進めます。

文化課

☎0848・64・9234